
いじめられっ子男子高校生の逆襲

takumi

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

いじめられっ子男子高校生の逆襲

【Nコード】

N0659Z

【作者名】

takumi

【あらすじ】

スクールカースト最底辺の座を守り続けること早十年。生まれ持ったのいじめられっ子の前にあらわれたのは戦の神だった。

1・二期一会（前書き）

オリジナル初連載です。完結できるように頑張ります。

1・一期一会

俺は弱い。これには身体的な意味とメンタルな意味も含まれる。

俺は昔から弱かった。体格にも恵まれず人見知りであり話さなかつたせいで、小学生の頃からスクールカーストの最底辺の座を譲つたことがない。

友達はいなかった。でも周りに人はたくさんいた。小動物を狙う獰猛な目をしたいじめっ子たちがいつも俺を取り囲んでいた。

そして現在高校一年生。昔からの知り合いが誰もいないような自宅から離れた高校を選んだ。そこでも俺はかわらずいじめられていた。

同じ人間なのに、同じ高校生なのに、どうしてあいつらはあんなに偉そうなんだ。俺はお前らの財布じゃない。暇つぶしの道具でもない。

……もし強くなれたら。もし強くなれたらあいつらを思いっきりぶつ飛ばしたい。

「困っているな若者よ」

「誰だ!？」

日課のいじめっ子たちを殴り飛ばす妄想をしていたら老人の声が聞こえた。ちなみにここは俺の部屋だ。

「力になってやらんでもないぞ」

そう聞こえたかと思つた次の瞬間。

……机の中からヨボヨボのジジイが出てきた。ドラ。もん!？」

「だ、誰だお前!」

「わしの名は雲隠七斎。くもかくれしちさい 神じゃ」

なにをおっしゃるこのおじい様は。

「い、意味わからないことを言うな警察呼ぶぞ!」

「生き急ぐな若者よ、わしはおぬしを助けてやるうかと言っている」
「助けるってなにをだ」

「強きものに勝ちたいというのじやろう？ 神であるわしがその手助けをしてやってもいい。なぜなら神じゃからな」

「なぜそれを知っている！」

「いったであるう？ わしは神じゃ」

「じゃあ、どうして机の中から出てきた！？」

「パロディじゃ」

「パロディかよ！」

ちなみに机はジジイが出てきたときに負荷に耐えられなくてバラになった。とりあえず小一時間問い詰める気だったのにパロディの一言で済まされてしまった。

「どうみてもあんたが強いようには見えないんだが」

「こりゃ！ 神に向かってなんて口をききよる！ わしのことは神様と呼べ！」

「わかりましたよ神様、で手助けつてのは具体的に何をしてくれるんだ？」

「わしは戦の神じゃ。故にわしはおぬしを強くすることができる」

「え、強くしてくれるのか？」

「ああ、もちろん修行は必要じゃがな。その面倒をわしがみちやる」
「なんで俺にそこまでする」

「まあぶつちやければ点数稼ぎじやな。神の世界にも組織や社会があつての、そこで神は神としての価値を査定されるのじや。人の役に立たぬと判断されれば神はその役目を解任され再び輪廻の環に戻る。神の暮らす天上はとてもいいところでのう、それをやすやす手放すわけにはいかんのじや」

「つまり俺を強くする事で神としての実績を得たいというわけだな？」

「ま、そういうことじやな。にしてもおぬし……弱いもの」

はあやれやれと言った感じで自称神様は言ってくる。

「なぜわかる」

「わしは戦いの神じゃから見ただけで相手の強さや持っている能力

がどの程度のものが解るのじゃ」

「戦闘力とかRPGのパラメータって感じか？」

「そんな感じじゃな。ちなみにおぬしは総じてひとケタ台じゃの」「ひくつ！　っていつても基準はわからないけど。ちなみに戦闘力にするとどれぐらい？」

ドラゴンボ。ルが好きな俺は少し楽しみだった。俺はあの世界の誰に匹敵するのだろうか。

「戦闘力たったの2じゃ、ゴミめ。今のおぬしならニフラムで消えるぞ」

農夫に負けた……ニフラムで消えるとか雑魚キャラですやん。てかなんでこんなにサブカルに詳しいんだこのジジイ。

「……………」

「で、どうするのじゃ？　わしに教えを請いたいのなら契約が必要じゃ」

「契約？」

「そうじゃ、契約をするとうつなるといつとつまるどころ、常にわしと行動を共にすることになる」

「なぜだ！」

「ふおっふおっふお、簡単なことよ。契約していなければおぬしはわしを見ることはできん。見れんのだから何もしてやれん。そういうことじゃ」

「今見えてるじゃないか」

「今は契約交渉の段階に当たるからの。接触できなければ契約できぬだろう？　難しく考えるな。つまりそういうことなんじゃ」

「でも神様は本当に俺を強くできるのか？」

「まだ疑ってるようじゃの。どれ、少し力をみせてやろう」

そういうとおもむろに右手をデコピンをする前のかたちにし、それを壁に向けた。

「えいや」

「……………」

そのまま空中でデコピンをしたかと思った刹那、俺の部屋の壁が消失した。というより爆散した。

「ふぉーっふぉっふぉ」

「ふぉーっふぉっふぉじゃねえよ！ 何すんだよジジイ！ 机とい壁といい次々壊しやがって！」

この後俺はジジイに本当に一時間以上説教した後神との契りを交わした。ちなみに壁はジジイが神の力で元に戻した。

1・二期一会（後書き）

というわけでこれからまだ名前すら明かされてない主人公とジジイのサクセスストーリーが始まります。
感想のほうも随時お待ちしています。

ニフラム…ドラクエで雑魚を消す魔法のようなもの。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0659z/>

いじめられっ子男子高校生の逆襲

2011年12月2日17時55分発行